

南城市立図書館基本方針

令和 7 年 3 月

南城市教育委員会

目次

序章 図書館に関する法令と基本方針の位置づけについて

1. 関連法令
2. 本市の上位関連計画

第1章 南城市立図書館の現状と課題

1. 南城市立図書館方針策定
2. 市立図書館の概要
3. 現市立図書館の利用状況
4. アンケート集計結果
5. 現市立図書館の課題

第2章 南城市立図書館基本方針の考え方について

1. 課題から見た機能の抽出
2. 図書館機能の基本的な考え方

第3章 南城市立図書館の将来ビジョン

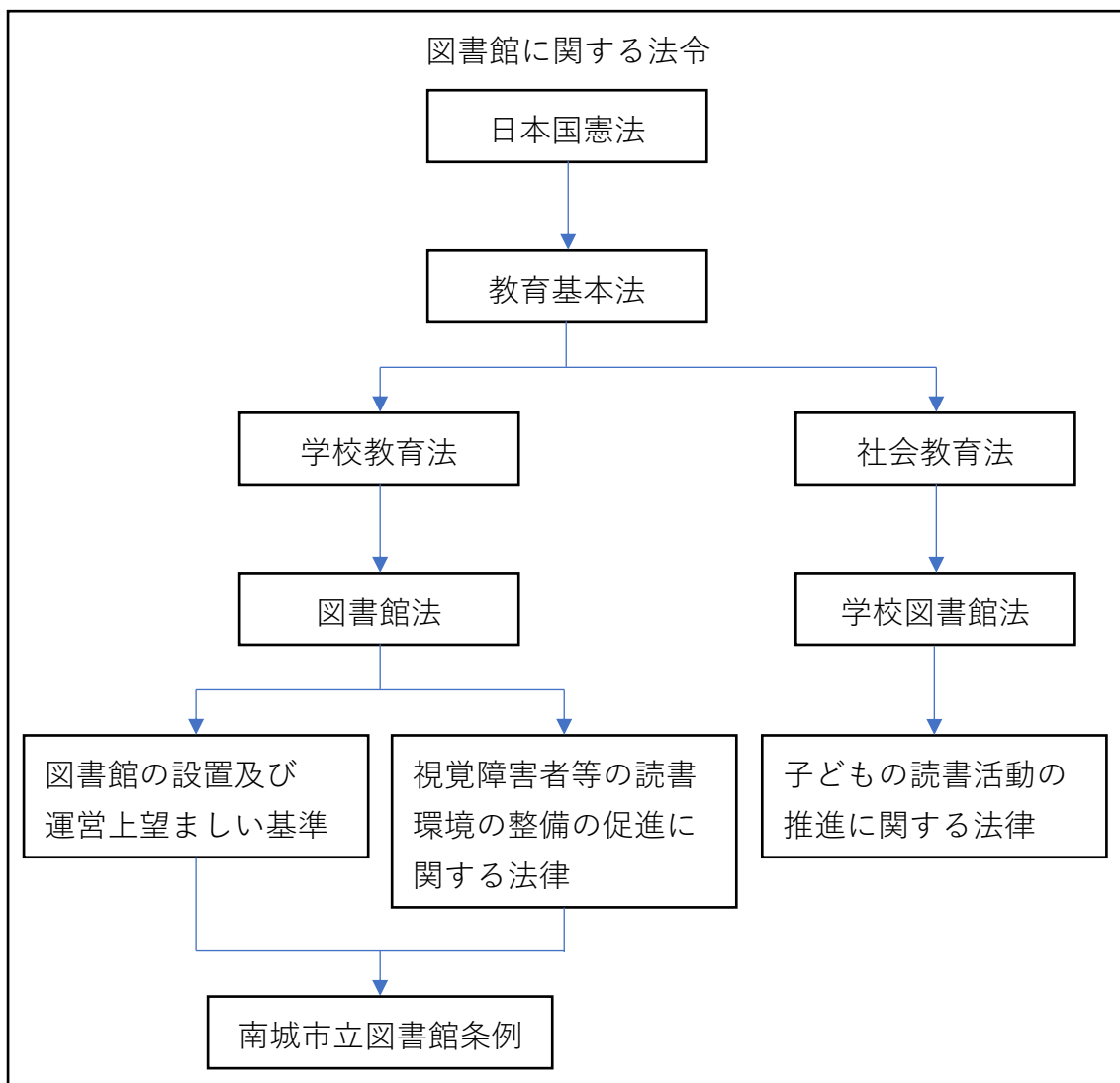
1. 市立図書館の将来像
2. 基本方針
3. 重点的な取り組み

第4章 より良い図書館の実現にむけて

序章 図書館に関する法令と基本方針の位置づけについて

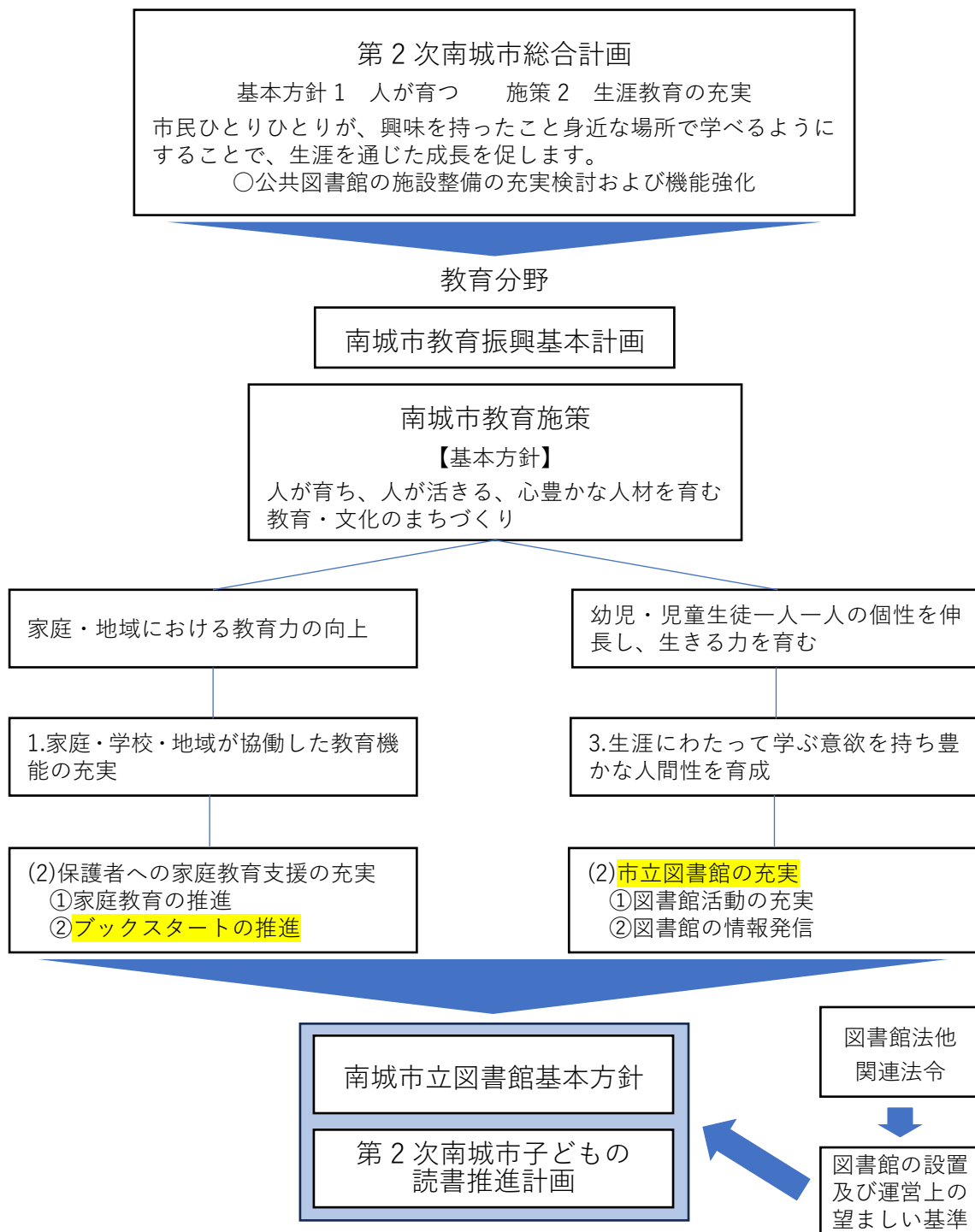
1. 関連法令

図書館をとりまく関連法令について体系図にて以下に明記する。



2. 本市の上位関連計画

南城市立図書館基本方針を策定するにあたり、本市の総合計画および教育分野の施策についての体系を以下のように明記します。



第Ⅰ章 南城市立図書館の現状と課題

Ⅰ 市立図書館方針策定

本市は、平成１８年に町村合併により南城市として誕生する以前から、旧町村単位で図書館機能を有し、合併後も分館方式により機能を維持してまいりました。町村合併から１８年が経過し、館内の狭隘化による蔵書の分散、相互貸借利用の増加、分館によるサービスのばらつき、入居公共施設の老朽化など分館方式による課題も浮き彫りになる中、現在の施設では、社会の変化に対応した図書館機能を果たすことが難しくなってきました。

また、市立図書館が、生涯学習の拠点として本来の役割を果たしていくためには更なる資料の充実を図り、市民の課題解決を支援するサービスを充実させ、南城市独自の風土を活かし、市の教育行政施策や学校、その他関係機関と連携し、コミュニティ形成、交流の場を目指す場となる必要があります。

そのため、本市では現在ある４分館のうち知念図書館は当面の間存続させ、佐敷分館、大里分館、玉城分館の３分館を市中央図書館へ機能統合し新たな南城市中央図書館として稼働する方針となっています。

図書館機能を統合するにあたり南城市民が求めるニーズ、新しい時代における図書館の在り方について市立図書館として方針を策定し、市の目指す方向性を示すことが求められています。

2 市立図書館の概要

市立図書館は、合併以前の状況を引き継ぎ知念図書館、大里分館、佐敷分館、玉城分館の4機能が既存の公共施設の一部として入居する形で運営しています。

分館の中でも、大里分館が入居する農村環境改善センターは築43年（令和6年時点）になり、機能移転が検討されています。また、旧南城市中央公民館に入居していた玉城分館は、施設の老朽化による同施設閉館後に百名小学校の地域連携室を改修し機能移転して学校及び地域の協力、理解のもと運営を続けています。佐敷分館は、文化センター・シュガーホールの一部で運営を続けておりますが、奥まった立地によるアクセスに課題を抱えている状況であり、他施設と同様バリアフリー機能に課題がみられます。知念図書館については、平成25年に建築され、他の公共施設に比べても比較的新しく、小中学校からも近く児童館も隣接しており児童生徒の利用者も多い状況です。

現市立図書館の各分館においては、インターネット、電話、窓口などですべての分館の蔵書の確認、貸し出しができるよう図書館システムにより連携しています。また、市内小中学校内にある図書館との連携では、市内小中学校図書館で対応できない資料等や詳細な資料を必要とする場合に、市立図書館から団体貸出で足りない資料を補填するサービス連携も行っています。

<現市立図書館位置関係>

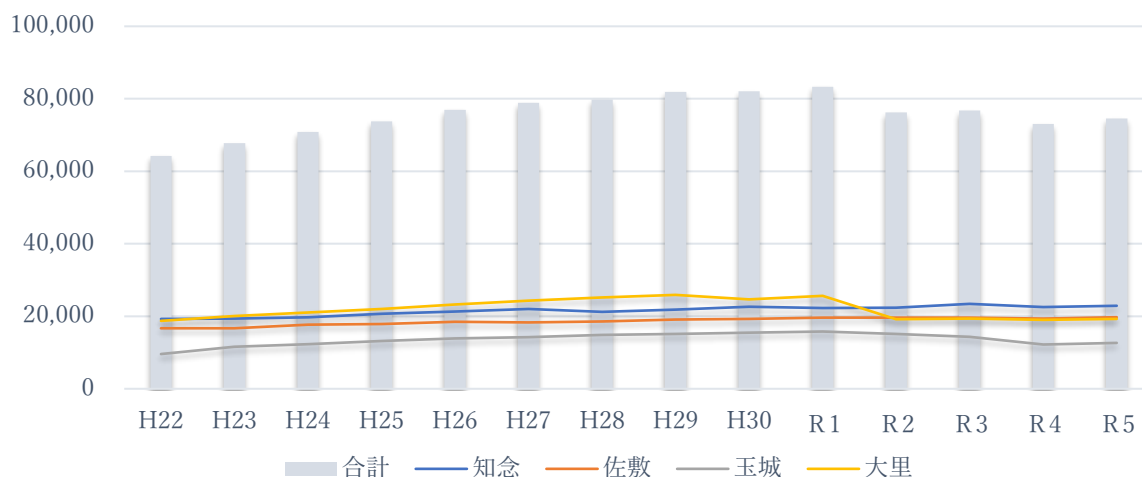


Google Map による最短の移動距離

3 現市立図書館の利用状況

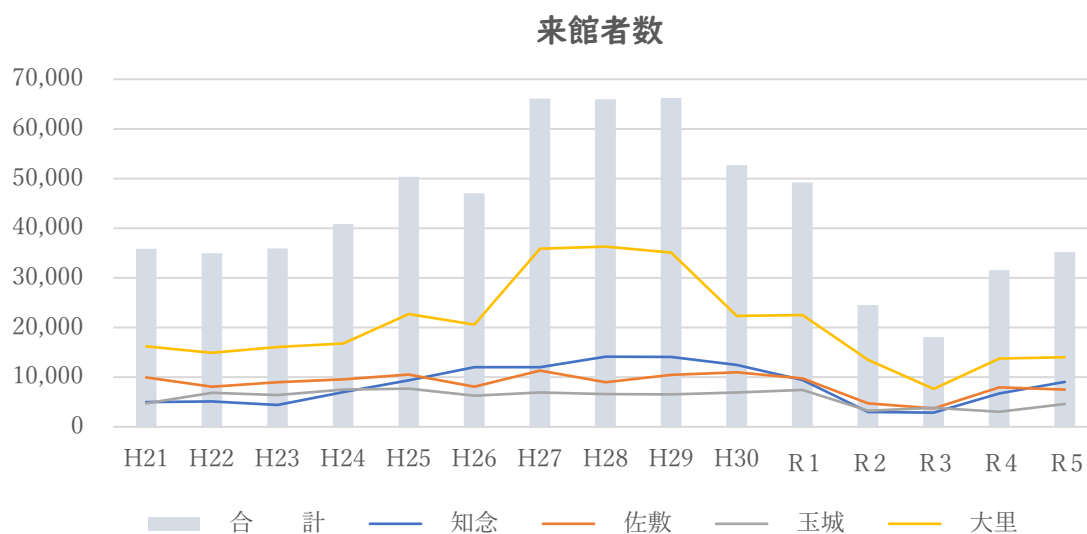
3-1 蔵書

- ✓ 4分館の合計蔵書冊数は、7万5千冊程度で推移。
- ✓ 近年は知念図書館の蔵書数が最も多い。(知念図書館のみ閉架書庫所有)

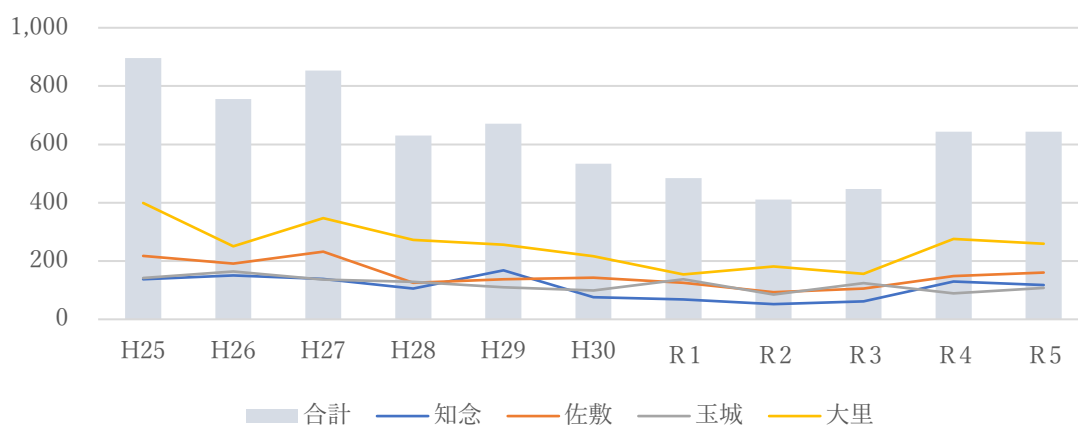


3-2 来館者数及び新規登録者数

- ✓ R2年～3年にかけてコロナ禍により減少。
- ✓ 近年は3万人程度で推移し、4分館では大里分館の利用者が多い。
- ✓ 新規登録者数はコロナ明け増加傾向にあり年間600人前後の登録者がある。

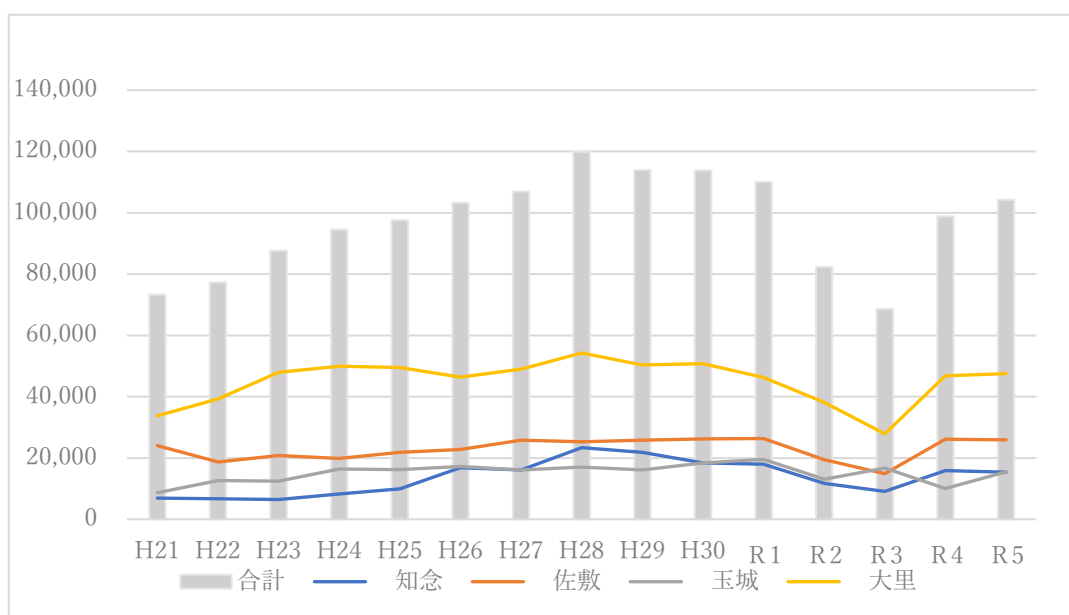


新規登録者数



3-3 貸出サービス等利用状況

- ✓ 全体の貸出冊数はコロナ禍を除くと10万冊程度で推移。
- ✓ 利用者は大里分館が最も多い。



4 アンケート集計結果

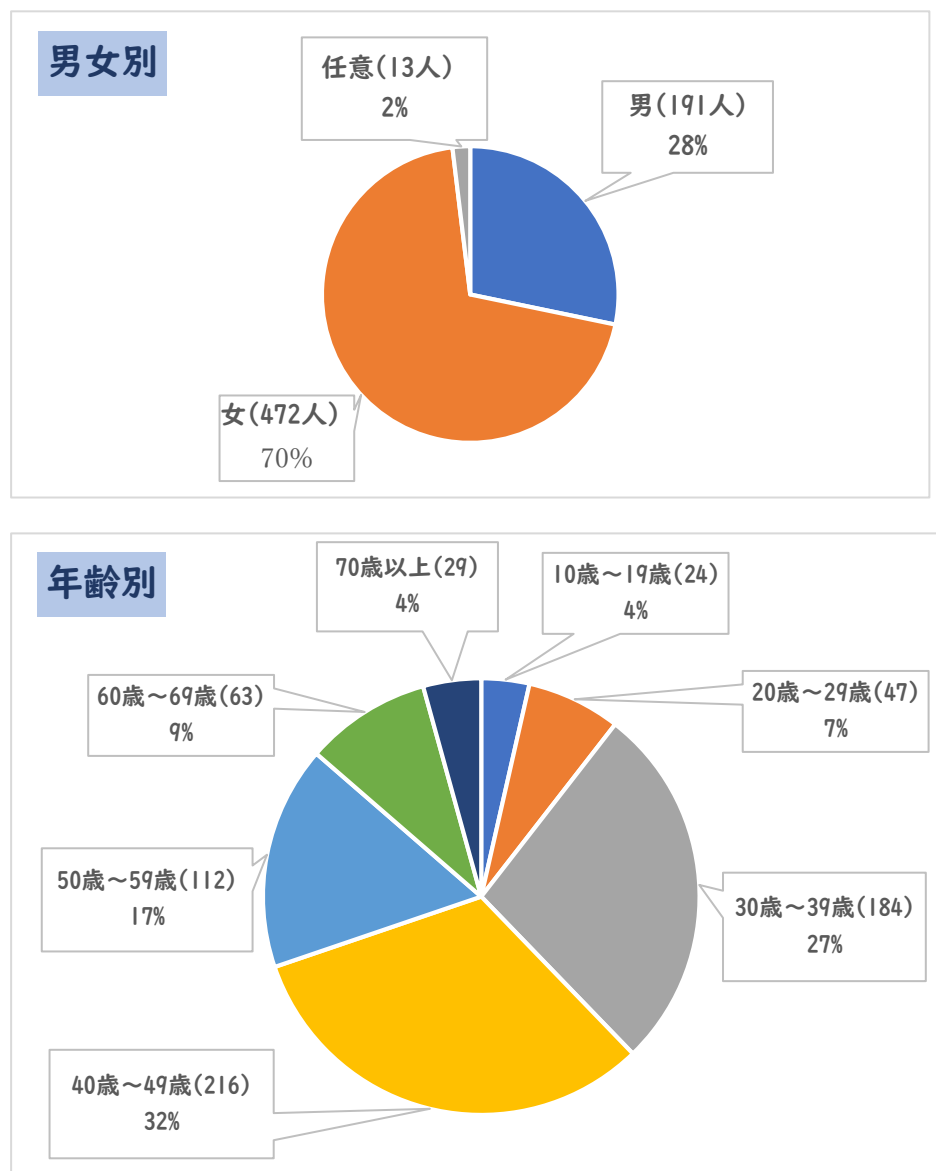
市立図書館の現状を把握し、これからの図書館の在り方の参考とするため、市ではホームページ、LINE等、及び図書館窓口その他関係施設での紙によるアンケート調査を行いました。アンケート結果からわかる現市立図書館の利用者の現状、ニーズ等について以下にまとめました。

対象	市立図書館利用者（市外在住者含む）
調査期間	令和6年2月19日～令和6年3月30日
調査方法	オンライン（Google Form）、紙媒体
調査数	オンライン：641件 紙媒体：95件（うち有効 35件、集計不可 60件）

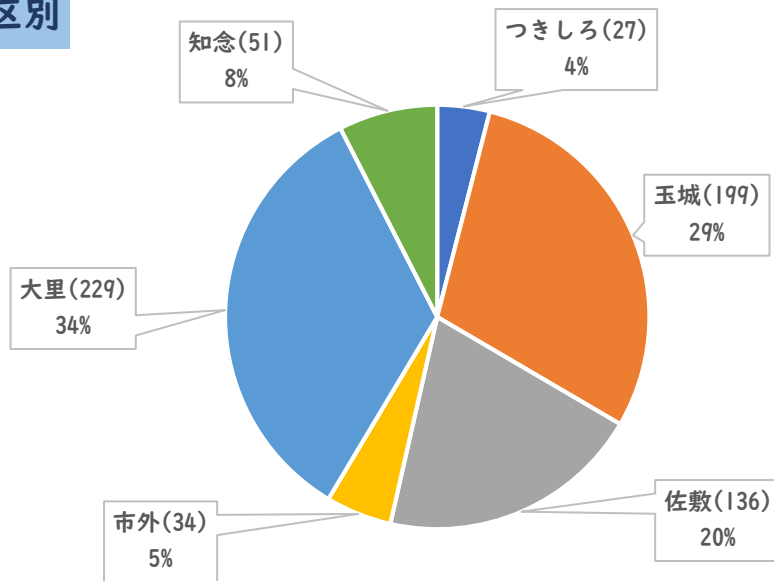
4-1 どのような方が利用されているのか。

アンケートは46,000人全市民を対象として実施しましたが、回答者約670人の7割が女性の方でした。年齢別では、30歳～49歳（59%）までが全体の半数を占め、続いて50歳以上の方が多い状況でした。職業別では、会社員（32%）が最も多く、団体職員、公務員（21%）、パート、アルバイト（18%）が多い状況となっています。どこから来訪されたかについては、大里地域（35%）から最も多く、玉城地域（29%）、佐敷地域（20%）でした。回答状況から、利用者が働き世代の女性が多い状況であることがわかります。

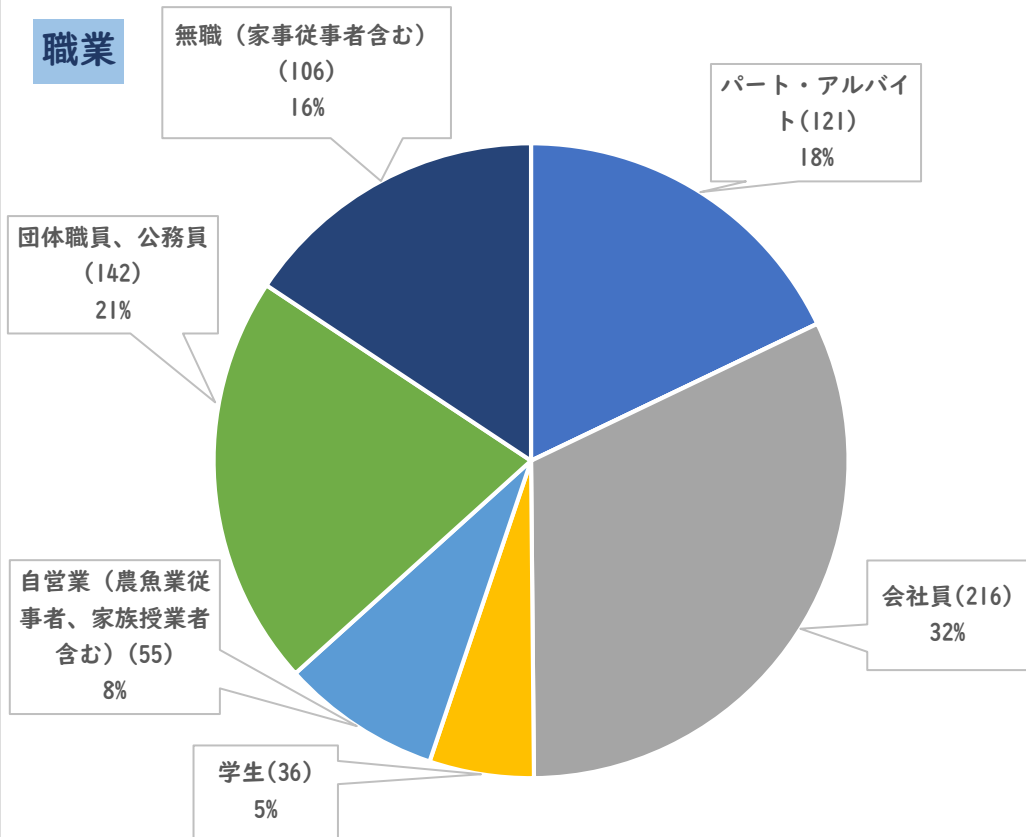
※図()は実数



地区別



職業

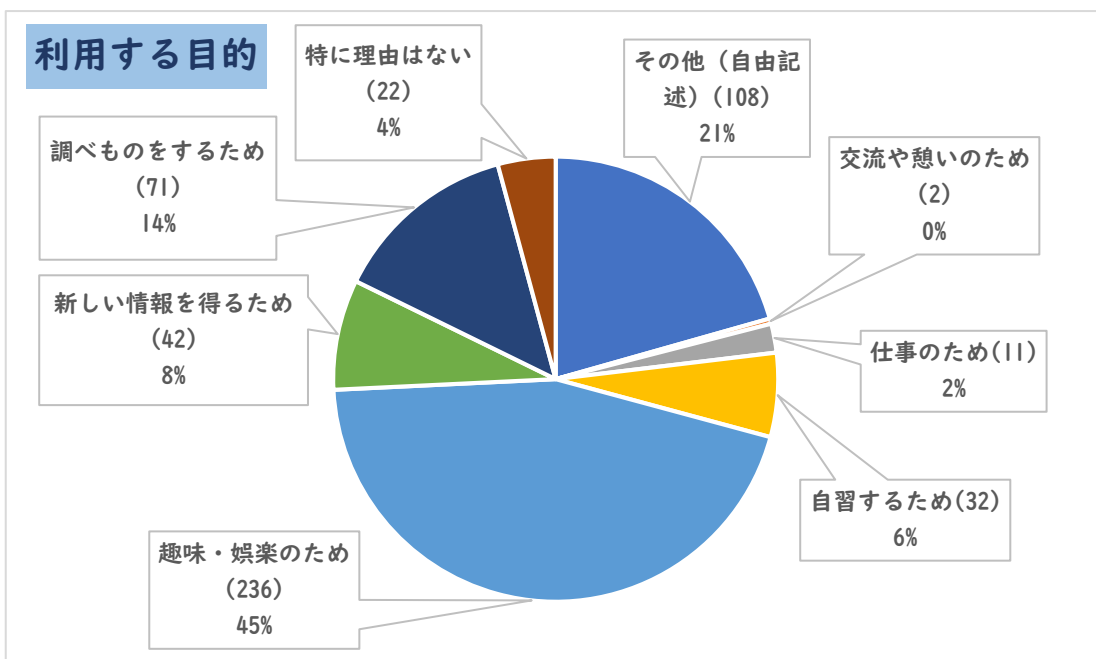
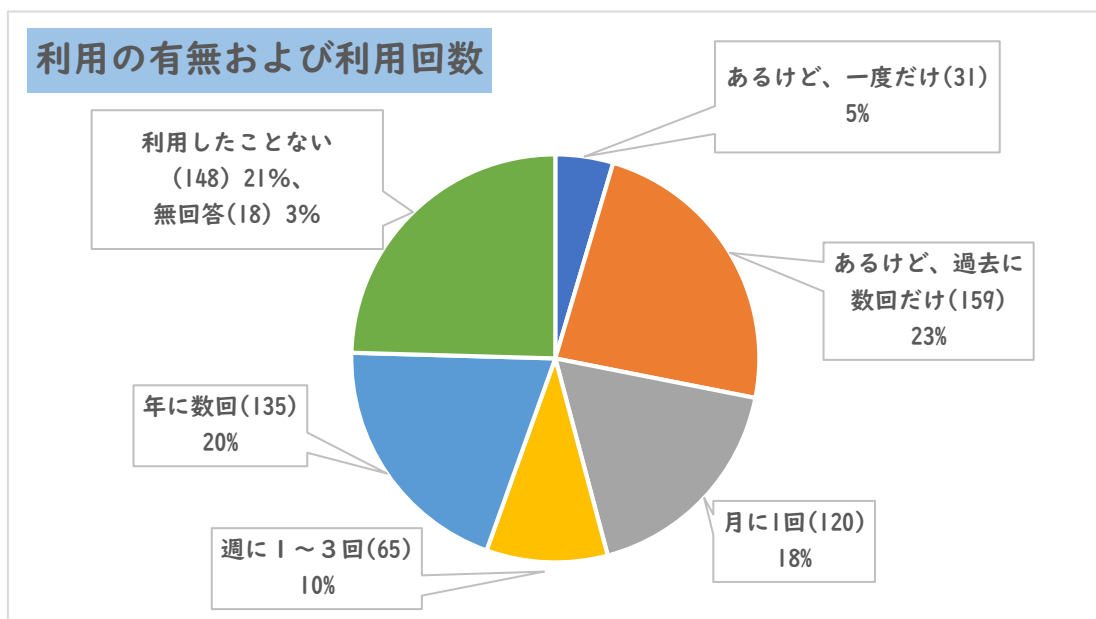


※図()は実数

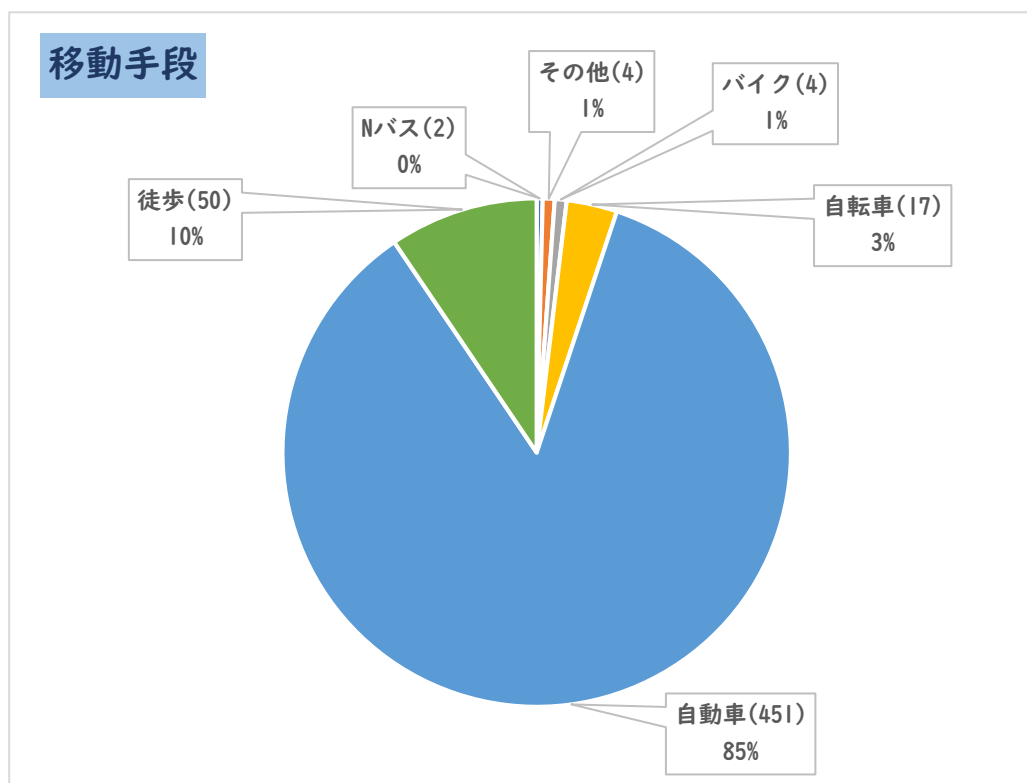
4-2 どのように図書館を利用しているか。

図書館を利用されたことがあるかどうかの設問については、過去に数回だけ（23％）が最も多く、続いて年に数回（20％）、月に1回（18％）となっていました。日常や習慣として利用するケースは少ないことが分かります。利用する目的では、「趣味・娯楽のため（45％）」が最も多く、続いて「調べ物をするため（14％）」、「新しい情報を得るため（8％）」とレファレンス機能を求めて来館される方が多い状況です。

※図（ ）は実数

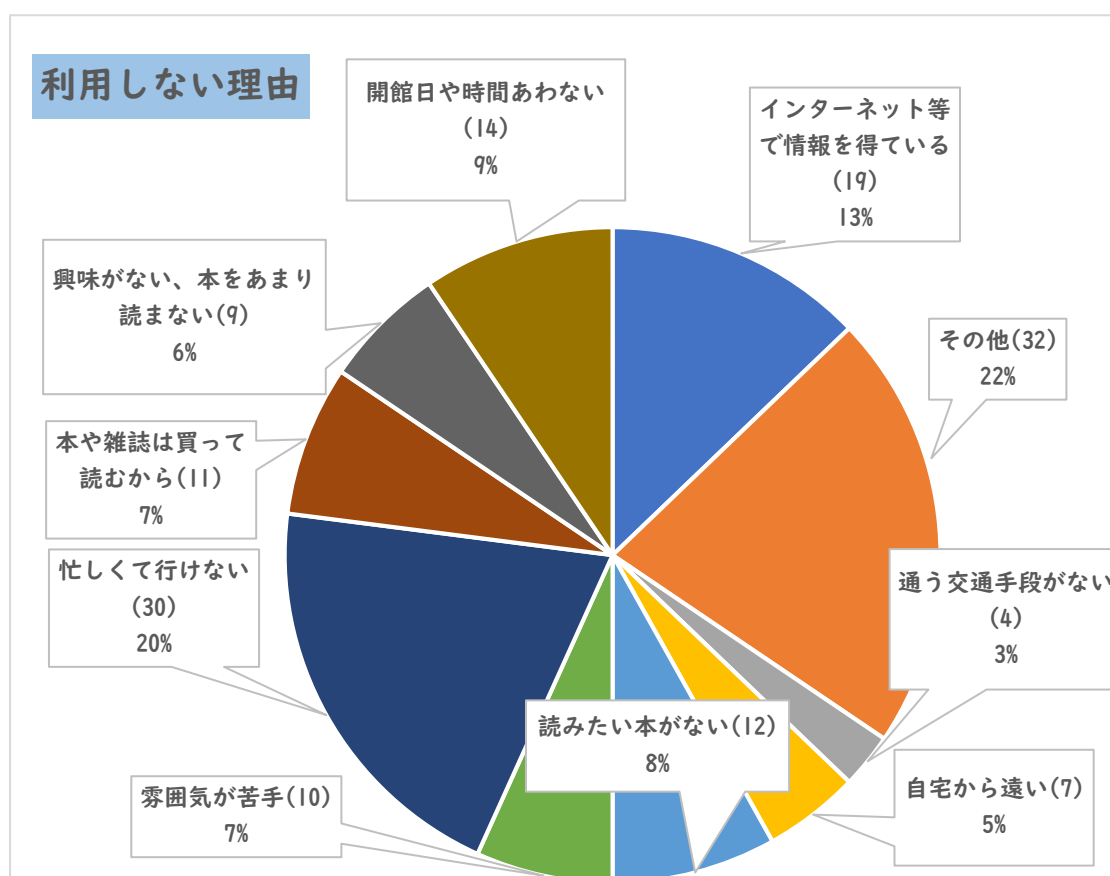


移動手段については、自動車が85%を占めており、次に徒歩で移動が10%との回答結果が得られほとんどの利用者が自動車を利用して来館していることが分かりました。また、Nバスでの来館者が少ないことも特徴の一つです。



※図()は実数

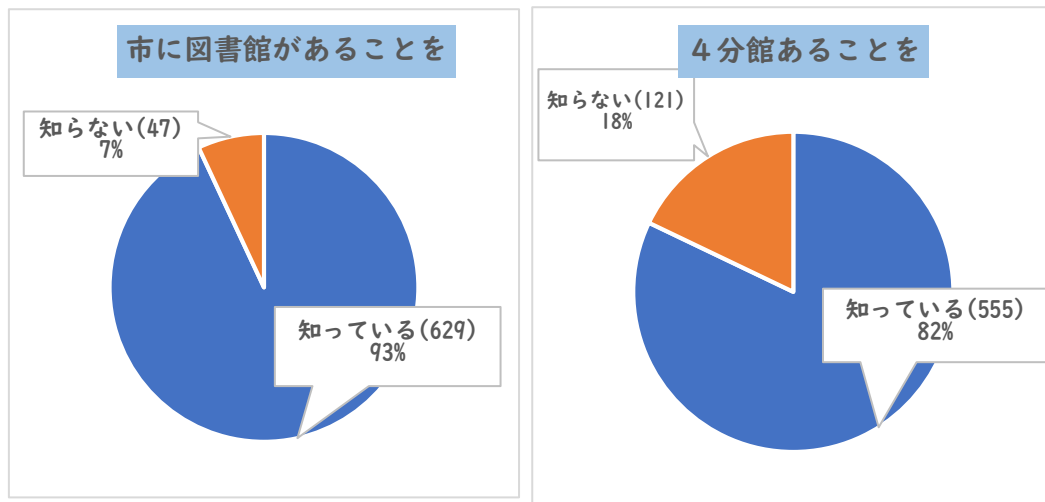
また、利用されることがない方（21％）も一定数おり、その理由では、「忙しくて行けない（20％）」が最も多く、「読みたい本がない（8％）」、「インターネット等で情報を得ている（13％）」、「本や雑誌は買って読むから（7％）」などの図書館以外で情報収集しているケースも見られました。また、「雰囲気が苦手（7％）」や「開館日や時間が合わない（9％）」のように施設運営に関する原因もみられました。



※図()は実数

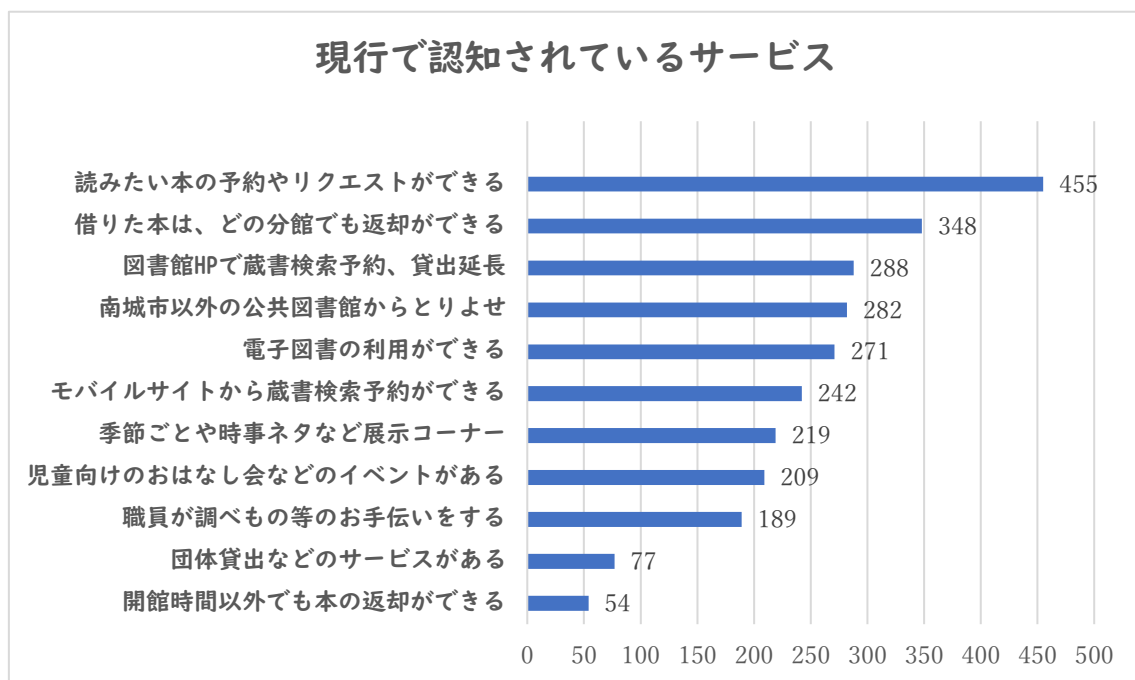
4-3 今の図書館をどう思っているか。

そもそも市立図書館を知っていると答えた方は全体の9割以上となっており、アンケート回答にご協力頂いたほとんどの方に認知されていましたが、4分館あることを知らない方（18%）も一定数おりました。



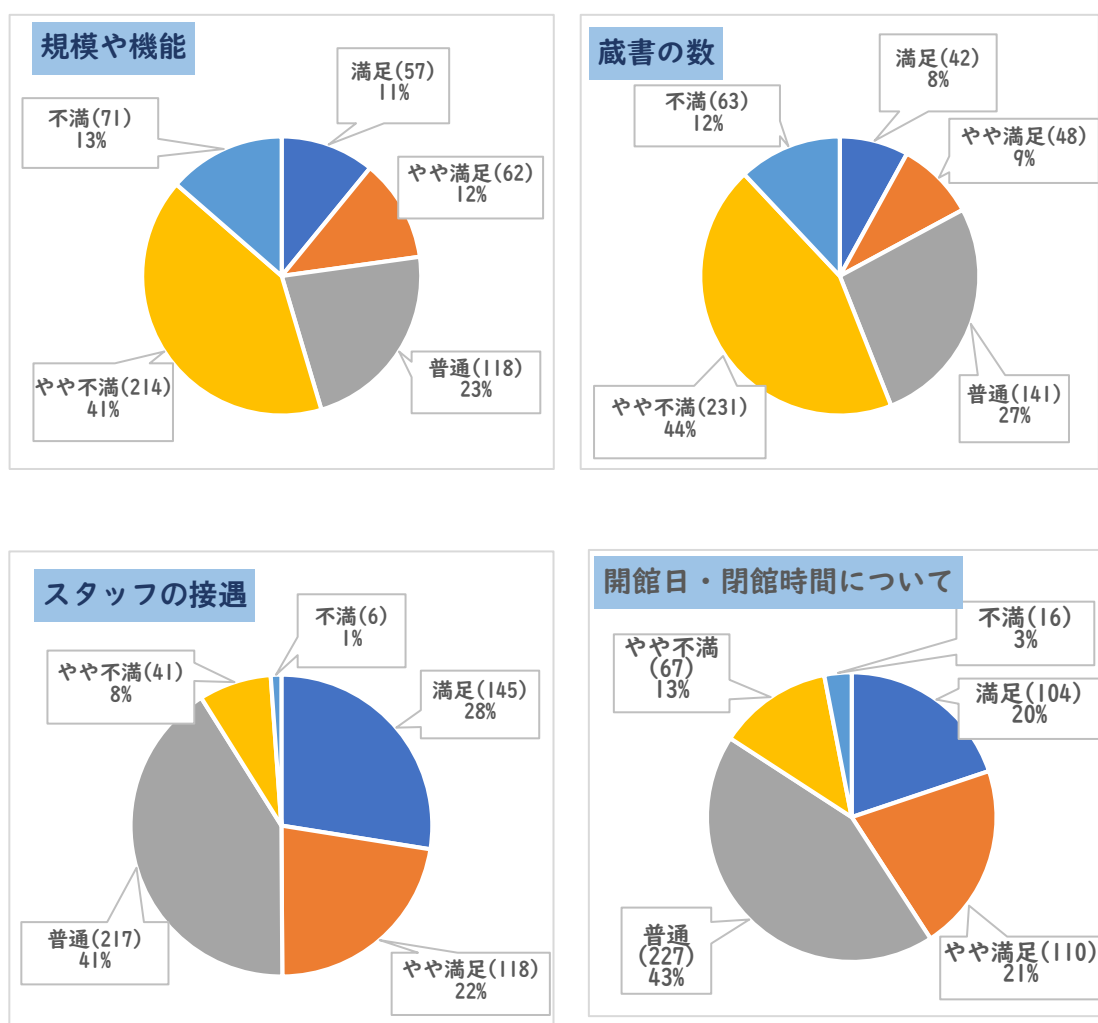
※図()は実数

現在の市立図書館では、分館方式を活かした様々なサービスを行っておりますが、市民にまだ認知の足りないサービスも見られ、図書館の広報活動の充実が必要となっています。

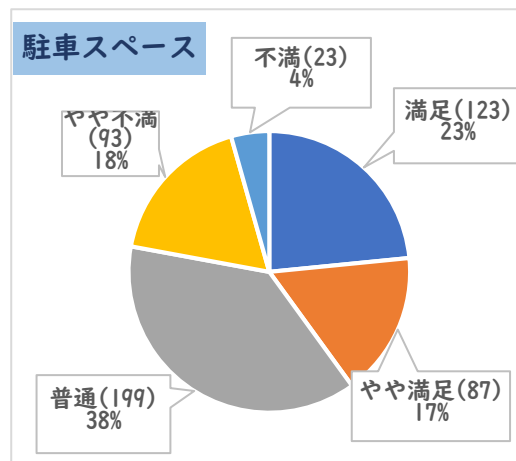
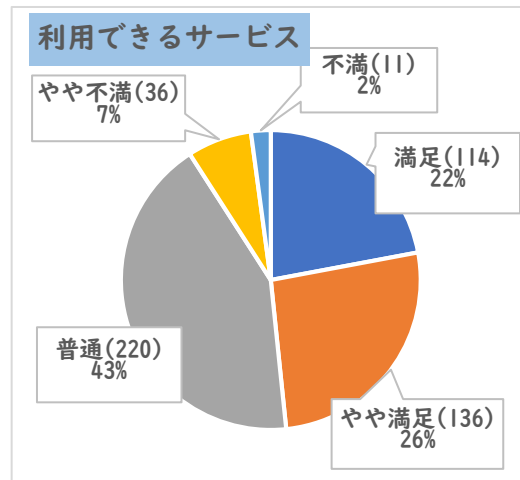
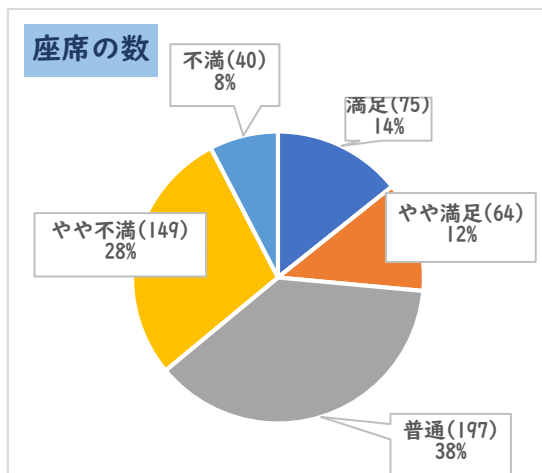


分館方式の図書館サービスでの満足度の集計結果から、施設の「規模や機能」、「蔵書の数」などの機能面や「座席の数」、施設そのものについての不満がみられた一方、施設「駐車スペース」「利用できるサービス」「開館日・閉館時間」については、不満感を感じる回答は比較的少ない状況でした。また、スタッフの接遇については、満足（28％）とやや満足（22％）で半数を占め比較的満足度の高い結果となっています。

現在の市立図書館において機能面、施設の内容に不満を感じているケースが多く課題となっている状況です。



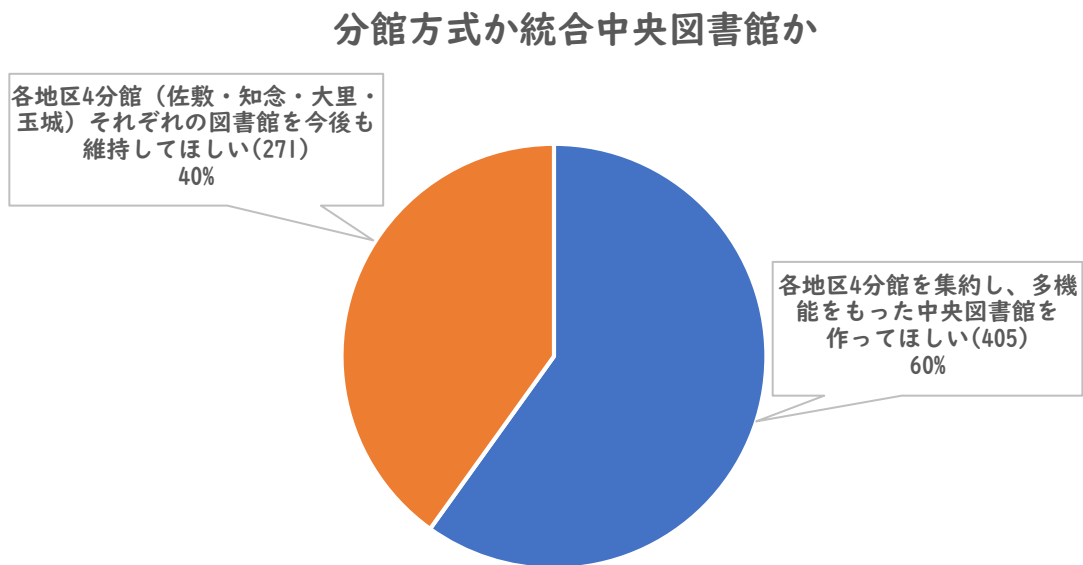
※図()は実数



※図()は実数

4-4 市立図書館はどうあってほしいか。

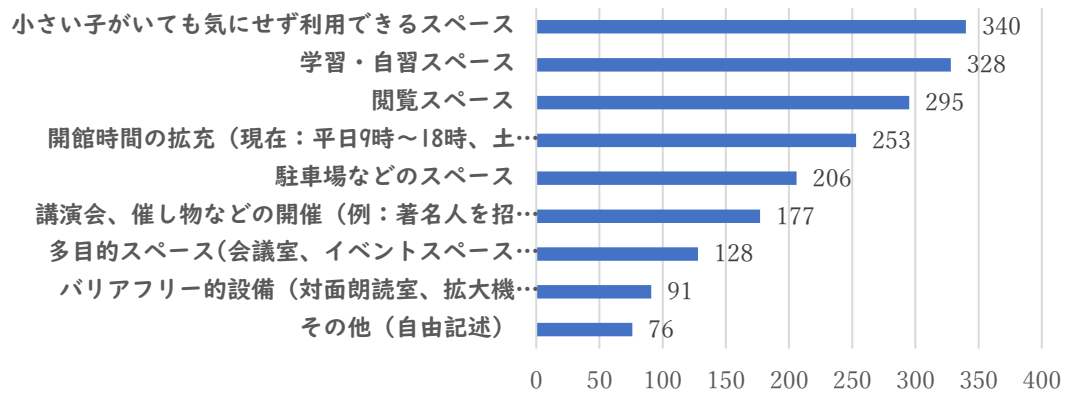
運営形態において、このまま分館方式で維持するか、統合し中央図書館をつくるべきか集計したところ、集約し多機能の中央図書館をつくって欲しいとの意見が全体の6割を占めています。



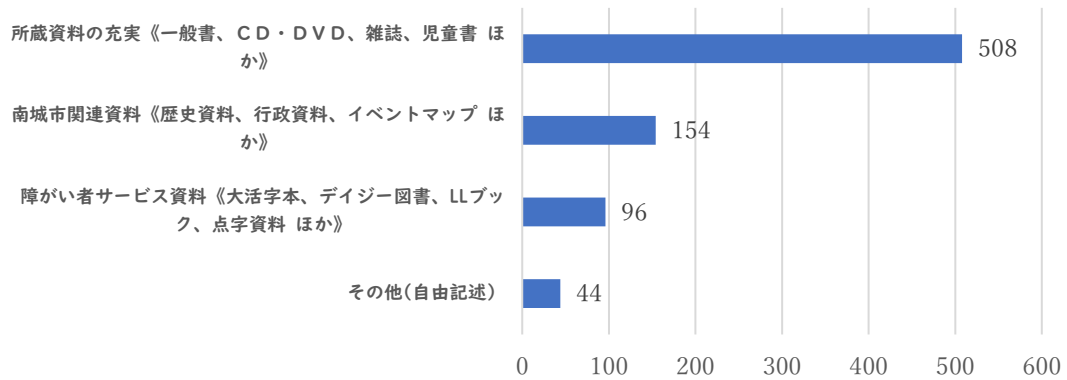
また、図書館で充実して欲しいサービスとの問いに、「小さい子がいても気にせず利用できるスペース」「学習・自習スペース」「閲覧スペース」「駐車場スペース」「多目的スペース」などの意見が多い状況です。充実化を図るべき蔵書では、一般書、CD・DVD、雑誌、児童書の充実が最も多く要望がありました。

その他の自由意見において、Wi-Fi やカフェの併設、バリアフリー対策、子ども達が交流できる開放感のあるスペースを望む声が多くありました。特に、自由意見に多くみられた傾向として図書館を訪れた最初のきっかけが、子どものために絵本を探したり、読み聞かせをしたり、子どもに本を好きになってもらいたいからという意見も多くあり、子どもと一緒に本に親しめる空間の要望が多い状況です。

充実して欲しいサービス



充実してほしい機能（蔵書）



市立図書館が今後進むべき方向性や取り組む課題について自由意見を求めた結果、施設機能についての意見が28%を占め最も多く、次いで自宅からの距離、移動、位置に関する意見（7%）、蔵書の種類に関する意見（5%）、施設規模・スペースに関する意見（3%）となっています。

特に多かった施設機能の意見では、人が集まり、交流が生まれるような居心地の良さや、カフェや Wi-Fi などの環境整備を求める意見がありました。

※ Wi-Fi 設置については令和6年度7月より4分館全て整備を完了しています。

以下、アンケートでの主な自由意見。

施設規模・スペース	小さすぎて自習したい人、本を読みたい人、子どもを連れて行きたい人、どちらのニーズにも当てはまっていない。
	学生が学習等に取り組めるように大規模な図書館設置を要望します
	南城市図書館が非常に小規模なため、市外図書館を利用しています。
施設機能に関する事	一つの図書館に集約して建物などの施設内もきれいにしてほしい。カフェなども併設してくれるとさらに良い。
	文化の中心施設および専門施設として、司書の正規雇用者の拡充を行う。
	若い世代への居場所機能、多様性や多文化理解へのきっかけ
	本が身近であるものを意識させる場所
	ほかの市町村に比べて図書数、施設を利用したいと思う魅力が少なすぎる。南城市在住学生の学力の低さに直結していると思う
	電子図書館の利用し易さ
	開館時間の延長
	子供（赤ちゃん）スペースやイベントなどの拡充。
	子ども達が気軽に立ち寄れるオアシスであって欲しい
	生涯学習の場として 読書 試験勉強 Wi-Fi で会議等気軽に学習や読書ができる場の提供
	知の集積地として、市民が豊かになる為に情報量から活用方法提供、知識の交流が促進される場所になって欲しい。
	土日の昼の閉館を無くして欲しい
	心地よい環境作り。カフェのような感じ、外の景色が見えるようにとか。それだけでも、利用したくなる。

	若い人や年寄りが、図書館で学びたい時に学べる図書館出会う欲しい。蔵書は文化的なものを中心として増やして欲しい。
	本屋もない南城市だからこそ、中央にしっかりした図書館が必要。南城市生まれの知念実希人さんをアドバイザーにするなど、独自性も出してほしい。
	誰もが気軽にふらりと立ち寄ることのできる図書館になってほしい。本を読むだけでなく、お母さんたちの情報交換の場や子供たちの遊び場を兼ねて安全に過ごせる施設にしてほしいです。
	市民が図書館に行きたくなるような企画、イベント、図書館でできることの周知。
	本の素晴らしさを知って貰う、子育て世代の合流
距離・移動など	分館がとても小さいため行く気が起きない。南城市の図書館に行くよりの少し遠くの図書館に行くことが多い。分館を統合してより大きな図書館にしてほしい。
	南城市役所に隣接しているとわかりやすく通いやすい様な気がします。
	図書館を一ヶ所に統合するなら、公民館を活用して移動図書館を開設するなど、移動手段の少ない高齢者や子供達に配慮して欲しい
	図書館が統合しても利用しやすい図書館にする事。不便にならないようにする。
	図書館は地域の大切な資源になっています。地域のエリアごとに図書館があることは南城市にとって魅力的だと感じます。子どもを産んで図書館のことを知ったので、地域密着の魅力ある図書館をもっと多くの人に知って欲しいです。
	日常地域の子供たちが歩いていける図書館があるといい。学校の図書館は、時間や借りたいものに制限が多い。
	4つの図書館は昔のままなので、古くなっていて雰囲気も暗い。ひとつにして、市としてふさわしい新しい図書館を作って欲しい
蔵書	本の冊数を増やすこと。子供に読んであげたい絵本が無いので自分で購入するしかなく、行かなくなったので行きたくなるような図書館を作って欲しい。
	蔵書が少な過ぎて借りたい本が無いです。豊見城市立中央図書館に申請、審査して豊見城市立中央図書館を利用しています。ちゃんとした図書館を作って欲しいです。
	もっと本の種類を増やしてほしい。
認知	まずは、存在を認知させることが大事だと思います。SNSなどを利用していったら、若い人にはいいと思います。
	図書館も充実して欲しいが、市民の本への関心が高くなって欲しい。
	普段図書館を利用しない人々へ図書館の存在・役割を周知すること

5 現市立図書館の課題

これまでの現状やアンケート調査の市民意向においては、特に施設機能の充実や蔵書の量及び質の向上を求める意見が多く、新中央図書館を整備する上で解消していきたい課題となっています。

- ✓ 設備が充実し、より居心地のよい空間整備
- ✓ 親子連れなど多世代が交流できる環境整備やイベントの充実
- ✓ デジタル技術の活用、その他支援サービスの充実
- ✓ 分館方式による収蔵量の偏りの解消、資料への即時的アクセス性の向上
- ✓ 開館時間や図書館サービスなどの充実
- ✓ 蔵書やそのほか各種資料の量及び質のさらなる充実

1. 施設内部、周辺環境

- ✓ 静かな環境利用を望む方や、にぎわいのある環境利用を望む方それぞれに対応した居心地の整備
- ✓ 本を活用しながら対話や探究がうまれ多世代が触れ合う環境の整備
- ✓ すべての市民が利用しやすい環境、バリアフリー対策が必要
- ✓ デジタル技術を活用した利便性の向上（IC タグによる蔵書管理システム、自動貸出、返却処理や蔵書検索等）が必要

2. 施設の課題

- ✓ 蔵書量が分散されていることで分館ごとの収蔵量が少なく感じる
- ✓ 資料が各分館で偏り、必要な図書資料を即時に入手することが困難
- ✓ 一部の図書館では奥まった位置に配置されるなど施設の認知度に影響

3. 施設運営

- ✓ 図書館スタッフが分館ごとに配置され連携がとりづらい(情報共有、イベント運営等)
- ✓ 施設の開館日が合わず来館できないこともある
- ✓ 施設の開館時間が短いため、十分にサービスが享受できない
- ✓ レファレンスの充実(司書スタッフのスキル向上)

4. 蔵書・資料

- ✓ 蔵書数が少ない
- ✓ 郷土資料、市の歴史資料は豊富だがそれを活かすイベントや工夫が少ない
- ✓ 電子図書の不足
- ✓ DVD、漫画など図書以外の資料が少ない。

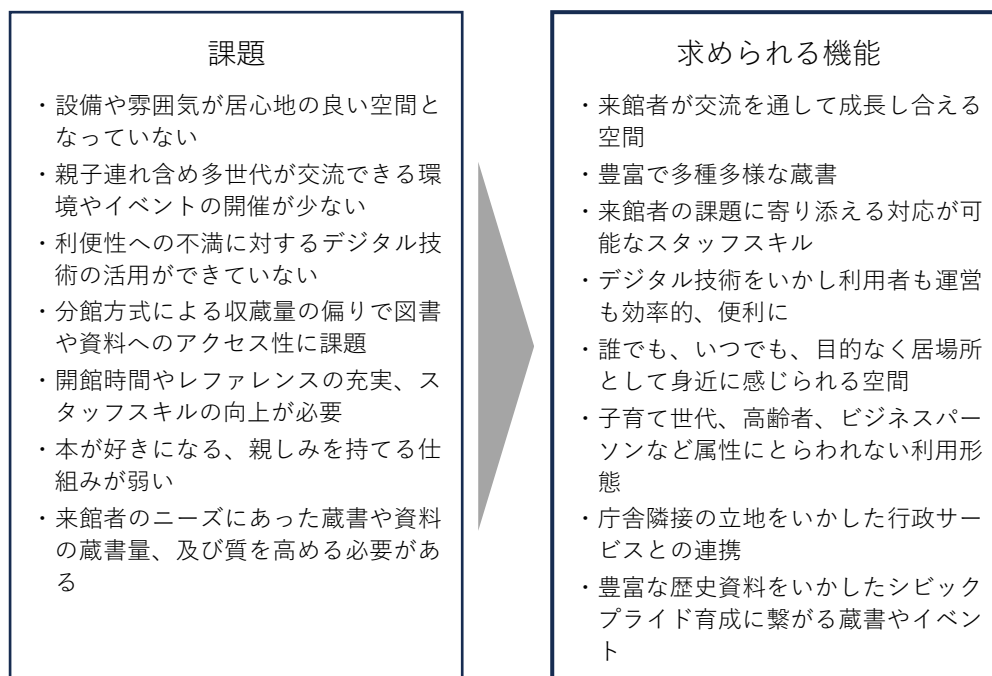
5. サービス

- ✓ 本に触れ合う、本が好きになるきっかけになるイベント開催が少ない
- ✓ 貸出・返却業務以外のサービスが弱い
- ✓ 子どもも親しめる親子が利用しやすいプログラムの充実

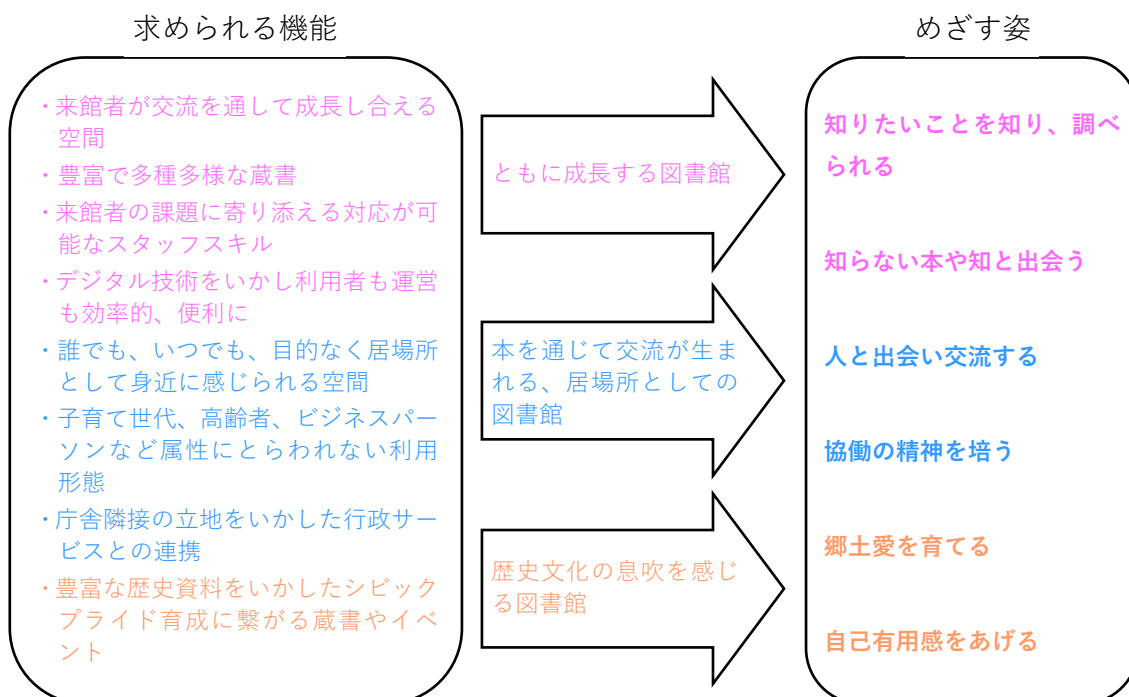
第2章

市立図書館基本方針の考え方について

1 課題から見た機能の抽出



2 図書館機能の基本的な考え方



I 市立図書館の将来像

本市の図書館は、合併後の特殊性を活かした分館方式により地域に根差した図書館運営を行ってきましたが、分館方式による課題もみえてきました。

図書館を統合し新たな市立図書館としてスタートするにあたり、これまでの課題に対応するだけでなく、どのような在り方を実現すれば、市民に愛され、居心地の良い図書館になるのかを考え、そこから市民の幸せにつながる施設となる必要があります。

図書館は、知識と情報への自由なアクセスを保障し、生涯学習のための中心的な役割を担う必要があり、全ての人々が平等に利用でき、学びと成長を促進するための機会を提供することが求められます。

同時に、図書館は多世代の交流を含めた多種多様な市民の居場所を提供する必要もあります。それは、コミュニティの知識と理解を深めるための場所であり、文化的な多様性を尊重し、異なる視点と経験を共有するための安全な空間を提供することも必要な役割です。

市立図書館が、知識と情報の拠点として、すべての市民が親しめる図書館となることを目指し、将来像を「市民に愛され居場所となる図書館」「支える」「役立つ」「つなぐ」「育む」市民の図書館」としました。

市民に愛され居場所となる図書館

「支える」「役立つ」「つなぐ」「育む」
市民の図書館

2 基本方針

1. とともに成長する図書館

図書館は、年齢や性別、心身の状態、経済状況など、個々の環境を超えて利用できる可能性を持つ場所です。それぞれ市民が抱える課題は多種多様で、図書館はそれらを解決する道筋を示し、解決への糸口を見つけるきっかけを提供する可能性を秘めています。また、未知の情報に出会うことで視野や潜在的能力を広げ、新たな価値や選択肢をつくり、それが成長のきっかけとなり、多様な人材を育むことにつながります。

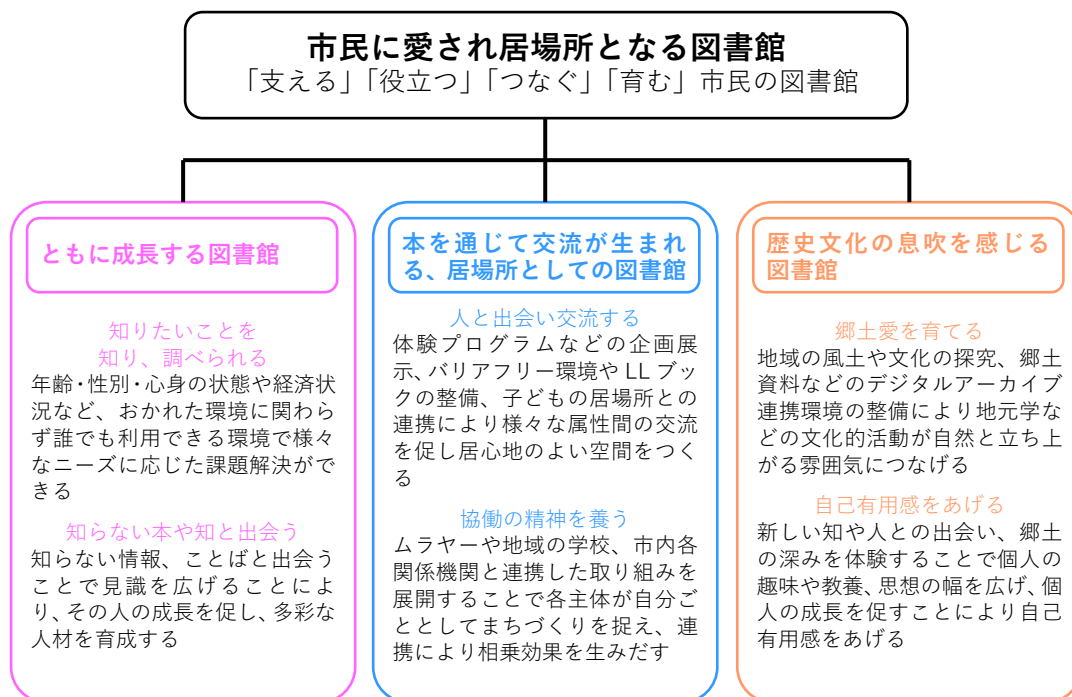
図書館は、知りたいことを調べる場所だけでなく、未知の知識や情報に出会う場所でもあります。利用者一人一人が、知識や知恵を育み交流が生まれることによって図書館自体も成長する、そのような場所を目指します。

2. 本を通じて交流が生まれる、居場所としての図書館

本を通じて人々がつながり、自然に交流が生まれるような体験プログラムや企画展示を行い、バリアフリーやデージー図書、LLブックの整備、子どもの居場所との連携など環境整備を通して、さまざまな属性を持つ多世代が交流を深めることで、居心地の良い空間形成につながります。さらに、地域のコミュニティや学校、市内の関係機関と連携した取り組みを展開することで、本や図書館を通じて出会った各当事者がまちづくりを自分事として捉え、まちづくりに積極的に参画する雰囲気をつくる相乗効果を生み出すことを目指します。

3. 歴史文化の息吹を感じる図書館

本市は、他の地域にはない歴史的価値と独自の文化を有しています。地域の風土や文化を探求し、郷土資料を活用したデジタルアーカイブ環境や豊富な歴史資料を活かすことで、地域への関心が深まり、市民が主体となった文化的活動の拠点となることが期待されます。また、新たな知識や人々との出会いの場となり、郷土の深みを知り体験することで、郷土への愛着が育まれ個々の趣味や教養、思想の幅が広がり、自己有用感が高まる場所を目指します。



※シビックプライドとは・・・

市民としての誇りや地域への愛着を指す言葉です。自分が住んでいる都市や地域、コミュニティに対する肯定的な感情や誇りを表現するために使われ、それがあることによって地域社会の絆を強化し、地域の発展や改善に対する個々の貢献を促進することができます。

※LLブックとは・・・

「LL」とは、スウェーデン語の「Lättläst」（英語では easy to read）の略です。

誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた、「やさしく読みやすい本」のことを指します。

日本語が得意ではない方や、知的障がいのある方をはじめとした一般的な情報提供では理解が難しいさまざまな方にとっても読みやすいように作られています。（サイフク、Com 引用）

※レファレンス機能

調べたいことや探している資料など必要な資料、情報をご案内するサービス。図書の所蔵の有無だけではなく、関連資料のご紹介や所蔵している他館なども探しご案内します。

※レフェラル機能

調べたいことや探している情報に対してその分野の専門の機関や組織情報を提供し、紹介するサービス

3 重点的な取り組み

将来像や基本方針に基づいて、重点的な取組を進めていきます。

1. 基本方針1とともに成長する図書館

目標

① 知りたいことを知り、調べられる

生別や年齢、心身の状態、経済状況や居住地に関わらず誰もが課題解決できる公共サービスとして図書館のレファレンス機能があります。庁舎に隣接している立地条件を活かし既存の行政サービスと連携するなど、さらに充実したレファレンス機能やレフェラル機能をもつ図書館を目指します。

手法

適正規模に応じた幅広いジャンルの書籍を収集し、デジタル技術を活用した利便性の高い検索システム、レファレンスレベルの高いスタッフの配置

- (ア) 豊富なコレクション：幅広い分野の書籍や資料を揃えることで、利用者が求める情報の提供を目指します。
- (イ) 高度な情報検索システム： 利用者が必要な情報を効率的に見つけられるよう、検索エンジンやデータベースが整備された図書館を目指します。
- (ウ) 専門的なスタッフ： レファレンスサービスを提供し、利用者の質問に対して適切な情報を提供し、調査方法を提示します。
- (エ) 利用者に優しい環境： 静かな読書スペース、学習スペース、インターネットへのアクセスなど、利用者が快適に利用できる環境を提供できるスタッフの専門性の向上と育成を目指します。
- (オ) デジタルリソースの利用： 電子書籍やオンラインデータベース、デジタル図書など、デジタル化された情報リソースの活用、デジタルレファレンスなど、場所や時間に縛られずに情報を得られる図書館を目指します。
- (カ) 複合施設の立地を活かし既存の機関(南城市行政窓口等)との連携をもち図書館の課題解決支援の力を $+\alpha$ で創出することを目指します。

例) 子育てに関する資料検索やレファレンスをうけた場合に、子ども相談課や子ども保育課など福祉部の窓口へおつなぎする

目標

② 知らない本や知と出会う

知らない本や知、情報との出会いは、利用者の見識や興味の幅を広げるだけでなく、新しい自分との出会いを発見することにもつながるなど生涯学習施設としての役割を提供します。また、学校図書館と連携し、人材育成にもつなげていける新しい知と出会える図書館を目指します。

手法

知らなかった本や知識、情報と出会える機会をつくるために新刊書籍の定期的な展示、読書会、スタッフ推薦本紹介などのイベントの開催、デジタル技術を活用したデータベースの整備を進めます。

- (ア) 幅広いジャンルの本：多様な分野やジャンルの本が揃うことで、普段読まないような本とも出会うことができるような環境を目指します。
- (イ) 新刊書籍の展示：新刊書籍を定期的に展示することで、最新の情報やトレンドに触れる機会を提供できるような環境を目指します。
- (ウ) スタッフの推薦：図書館のスタッフがおすすめの本を紹介することで、自分では見つけることができなかった本と出会うことができる環境を目指します。
- (エ) ビブリオバトルや読書会：利用者同士で本の感想を共有する場を提供することで、他の人が読んでいる本と出会う機会を増やします。
- (オ) デジタルリソース：電子書籍やオンラインデータベースを利用することで、物理的な本だけでなく、デジタルな形での新たな知識とも出会える環境を目指します。
- (カ) 学校支援（学校図書館と連携し子どもたちの学びを支えるサービス）：「情報センター」「読書センター」の役割に加え、「教職員の支援」も視野にいったサービス展開ができる図書館を目指します。

※ ビブリオバトルとは・・・

誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームで、自分が面白いと思った本を持ち寄って順番に紹介し、ディスカッションを交えながら最後に一番読みたくなった本を投票で決めるゲームです。

基本方針2 本を通じて交流が生まれる、居場所としての図書館

目標

① 人と出会い交流する

図書館という場を通じて子どもからお年寄りまで属性に関わらずすべての人が出会い、対話が生まれ、新たな発見や交流を通じて互いに居心地の良い空間を創出します。

手法

講演会やワークショップ、地域イベントとのコラボなどの様々な企画を開催することで視点や知識を共有する。

- (ア) ビブリオバトルや読書会：定期的にビブリオバトルや読書会を開催することで、共通の興味を持つ人々が集まり、意見や感想を共有する機会の提供を目指します。
- (イ) 講演会やワークショップ：著名な講師を招いて講演会を開催し、特定のテーマについて深く学ぶワークショップを提供することで、利用者同士が新たな視点や知識を共有する場をつくれます。また、地域人材を活かし、つながりを育む機会を提供できる図書館を目指します。
- (ウ) コミュニティイベント：地元のコミュニティと連携してイベントを開催することで、地域の人々が集まり、交流する場となる図書館を目指します。

目標

② 協働の精神を養う

ムラヤー（自治会公民館）や市内小中学校、各種団体と連携した取り組みを展開することで、まちづくりを自分事として捉え参画し、互いに支え合い動きだす仕組みをつくり相乗効果を生み出す図書館を目指します。

手法

利用者の興味を引くボランティアプログラムや、グループ型のワークショップ、地域のコミュニティと連携した地域問題解決型プロジェクトの展開によりムラヤー、地域との意識連携を深める。

- （ア） ボランティアプログラム： 利用者同士の協力関係を深めることを目的とし、図書館の運営やイベントの支援を通じて、利用者が積極的に参加できるボランティアプログラム実施を目指します。
- （イ） ワークショップやセミナー： 図書館が主催するワークショップやセミナーでは、参加者が共同で学び、課題解決を行うことで協働の精神を育むことを目指します。
- （ウ） コミュニティの参加： 地域のコミュニティと連携し、地域の課題解決に向けた活動を行うことで、利用者間の交流と協働の精神が生まれる図書館を目指します。

基本方針３ 歴史文化の息吹を感じる図書館

目標

① 郷土愛を育てる

利用者自らが南城市の歴史や風土を深く理解し、誇りを持つことで、郷土愛を育み、文化的活動が自発的に立ち上がる環境づくりに努めます。また、地域特性に合わせた自然美や文化財、南城市独自の風土を育む文化形成の場とします。そして誇りある文化を蓄積し後世に伝えることができる図書館を目指します。

手法

独自の風土や文化を紹介した書籍やデジタルコンテンツを使ったイベントの開催

- (ア) 歴史や文化に関する資料：市内の歴史や文化に関する書籍、文書、写真、映像などの資料を豊富に揃え、利用者自らが地域の歴史や風土を深く理解することができる図書館を目指します。
- (イ) 著者や歴史家による講演会：市内の著者や歴史家を招いて講演会を開催し、知識と経験を共有することで、地域の歴史や風土に対する理解を深めることができる図書館を目指します。
- (ウ) 歴史に関する展示：地元の歴史や文化に関する展示を定期的に行い、視覚的に地元の歴史を学ぶことができる場の形成を目指します。
- (エ) 学校との連携：市内の学校と連携し、地域の学生が地元の歴史や風土を学ぶプロジェクトを支援することで、若い世代が地元の歴史や風土を理解し、誇りに思う機会の提供を目指します。
- (オ) コミュニティイベント：地域の祭りや伝統行事に関連するイベントを開催することで、地域の風土を体験し、その魅力を再認識する機会を目指します。

目標

② 自己有用感をあげる

新しい知や人との出会い、市の誇りある郷土の深みを体験することで個人の趣味や教養、思想の幅を広げ、個人の成長を促すことにより自己有用感をあげるにつなげます。

手法

自己啓発や理解につながる書籍の活用、地元の歴史や文化の学習から自らもその一部であることへの誇りにつなげ、地域コミュニティとのつながりを再確認することで利用者の自己有用感の向上につなげていきます。

- (ア) 自己啓発に関する資料：市民のライフステージにあわせた自己啓発や自己理解に役立つ書籍や資料の提供ができる図書館を目指します。
- (イ) ワークショップやセミナー：市民のライフステージにあわせた自己有用感を高めるためのワークショップやセミナーの開催実施を目指します。
- (ウ) 地域の歴史や文化への誇り：地域の歴史や文化について学ぶ機会を提供し、地域への誇りを育み自己有用感を高めることを目指します。。
- (エ) コミュニティとのつながり：図書館は地域のコミュニティとの連携を深め、利用者と地域をつなぐ役割を目指します。
- (オ) 安全な学習環境：図書館は、利用者が自分自身を表現し、新しいことを学び、自己有用感を高めるための安全な環境を目指します。

第4章 より良い図書館の実現に向けて

南城市立図書館は、地域の知の拠点として、また、人々の交流の場としての役割を一層発展させるため、「南城市立図書館基本方針」に基づき、重点的な取り組みを進めるとともに、市民に親しまれる図書館運営に努めてまいります。